



2025年11月13日

各位

会社名 日本アンテナ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 瀧澤 功一  
コード番号：6930 東証スタンダード市場  
問合せ先 専務取締役 清水 重三  
TEL 03-3893-5221

### 2026年3月期第2四半期（中間期）の業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

2025年5月15日に公表いたしました2026年3月期第2四半期（中間期）（2025年4月1日～2025年9月30日）の業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の業績予想値と実績値の差異

##### （1）連結業績予想値と実績値との差異（2025年4月1日～2025年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想（A）	5,300	400	400	350	32.74
実績値（B）	6,194	1,481	1,506	944	88.18
増減額（B－A）	894	1,081	1,106	594	—
増減率（%）	16.9	270.4	276.6	170.0	—
（ご参考）前期第2四半期実績 （2025年3月期第2四半期）	4,646	△437	△406	△655	△62.71

##### （2）個別業績予想値と実績値との差異（2025年4月1日～2025年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想（A）	5,300	400	400	350	32.74
実績値（B）	6,194	1,481	1,504	949	88.63
増減額（B－A）	894	1,081	1,104	599	—
増減率（%）	16.9	270.3	276.1	171.3	—
（ご参考）前期第2四半期実績 （2025年3月期第2四半期）	4,646	△455	△425	△681	△65.18

### (3) 業績予想との差異の理由

2026年3月期第2四半期（中間期）累計期間における連結業績及び個別業績につきまして、放送関連機器の売上高に関しては、家電量販店向け機器に関しては弱含みで推移しましたが、CATV事業者向け機器に関しては案件が増加したことや、自治体向けの防災関連機器が大きく伸長したことにより、期初の想定を上回りました。通信用アンテナの売上高につきましても、前期に引き続き官需向けデジタル無線機器の切り替え需要が想定を上回る水準で推移しました。また、ソリューション事業につきましては、前年同期には及ばないものの、小・中型案件の積み上げを推進したことにより前回予想を上回りました。この結果、連結及び個別の売上高は、前回予想を上回りました。

利益面につきましては、棚卸資産の最適化に伴う廃棄損やエレコム株式会社との株式交換に係るアドバイザー費用等を特別損失として計上しましたが、利益率の高い機器の売上が伸長したことやコストダウンへの継続的取組等により、営業利益、経常利益、中間純利益は期初の見通しを上回りました。

なお、2026年3月期通期業績につきましては、通信用アンテナは官需向けデジタル無線機器が好調に推移するものと思われますが、民需向け通信モジュール用アンテナは鈍化傾向にあります。また、放送関連機器につきましては、上期好調であった自治体向けの防災関連機器の需要が下期では想定内に留まる一方、家電量販店向け家庭用機器は市況の悪化の継続もあり当面苦戦を強いられることが予想されます。

ソリューション事業につきましても大型案件の減少等の要因により厳しい状況が続くものと思われます。

このため、2026年3月期通期業績における売上高は、2025年5月15日に公表いたしました予想を据え置くものいたします。

また、利益面につきましても、物価の上昇や為替変動の原材料価格への影響、エレコムグループとの経営統合に伴う諸経費等、流動的な側面があることから、前回予想を据え置くものいたします。

当社の今後の対応といたしましては、引き続き安定した黒字経営の達成を目指し、一層の販売・生産体制の効率化・省力化とコストダウンを推進してまいります。

## 2. 業績予想の適切な利用に関する説明

上記の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は市場の需要動向等様々な要因によって予想とは異なる結果となる可能性があります。

以 上